

□ トピック □ 植物を食べるイモムシ・ケムシ

日差しもだんだんときつくなり、新緑のまぶしい季節になりました。

草や木が芽吹いてやわらかい枝葉を伸ばすこの時期には、植物を食べて成長する虫たちも、越冬から目覚めて繁殖したり、急激に成長したりするため、一気に増加する感があります。草を見ればびっしりアブラムシが付着していたり、バリバリと音を立てながら葉っぱを摂食する毛虫の大群を目にしたことも、珍しくはないと思います。こういった虫の中には、人に対してかゆみや痛みなどの皮膚障害をもたらすものや、大量発生することで葉を食い尽くし、糸で汚損するなど、景観を悪くするものがあります。その代表種としては、ツバキ・サザンカでは「チャドクガ」、ケヤキ・プラタナスでは「アメリカシロヒトリ」、バラ科植物では「チュウレンジハバチ」が挙げられます。

樹木を加害するガやハチの幼虫は、孵化直後には小さくて目立たず、被害も軽微ですが、成長に従って虫が目立つようになるだけでなく、急激に摂食量が増加し、樹木への被害も一気に広がります。気がついたときには駆除が容易ではないほどに増えてしまうこともあるため、普段からよく観察しておくことが重要です。



写真.チャドクガ幼虫

《活動時期》
幼虫は4～10月にかけて年2回発生する。

《食物》
ツバキ、チャ、サザンカ、ビワなどの植物の葉

□ お知らせ □ 緑地で発生する害虫の防除

防虫の観点から見た植物の分類

針葉樹高木 (カイツカイブキなど)	害虫が付きにくい、隠れる場所が少ない。
広葉樹高木	害虫が付きやすい、夜行性昆虫の潜伏場所になりやすい。
低木	地面付近に葉が茂ることから虫が潜伏しやすい。

緑地、空き地は、虫の潜伏場所や発生源となっていることがよくあります。特に、普段あまり人が近づかない場所では、雑草が多くなることで植物相が豊富になり、植食性昆虫が増加し、それを捕食する昆虫やクモが増加することになります。潜伏にも好適であり、まさに虫たちの楽園です。そしてこれらの虫の中には、有毒なものもあり、また、周辺の建物にも多数飛来することもあるでしょう。こうならないためにも、緑地は管理しなければなりません。

管理といっても、除草、剪定、清掃等、非常に手間がかかります。有毒昆虫がいることに気づかなければ、酷い被害にあうこともあります。近年、薬剤の処理は、環境や人体への影響から、避けられる傾向にありますが、やはり、手間(費用)対効果でいえば、殺虫剤、除草剤は優れたものといえます。

緑地での防虫、除草をどのような頻度と方法でやるのが適正か、あるいは、そもそものような樹木を選択するのかなど、お気軽にご相談ください。

□ 豆知識 □ コガネムシは害虫？

身の回りに普通にいて、見た目にも美しい虫に「コガネムシ」がいます。コガネムシ科の昆虫は、丸い体型と綺麗な体色、比較的丈夫な体を持ち、多数の種が含まれており、カブトムシやフンコロガシもその一種です。

コガネムシの仲間には「害虫」もたくさんいます。代表的なものでは、変わった名前をもつ「ドウガネブイブイ」や「アオドウガネ」があり、市街地でもよく目にします。名前の由来は、銅のような渋い金属光沢を持ち、「ブンブン(ブイブイ)」飛ぶので「ドウガネブイブイ」、これの近縁種で青い色(というより緑色ですが)なので「アオドウガネ」です。これらは街路樹や庭木などに集まるコガネムシの一種で、大きさは20mm前後です。かわいらしい見た目とは裏腹に、成虫は光に大量に寄ってきて不快感を与えたり、様々な植物の葉を食害してボロボロにしたりします。また、幼虫は土の中で植物の根をかじって枯らしてしまうこともある、農作物や樹木の害虫です。

とはいえ、1匹で歩いている分には可愛らしくもあります。一度、よく観察してみたいかどうでしょうか？



写真.アオドウガネ成虫

《活動時期》
成虫は5～10月にわたって出現する。
《食物》
成虫は広葉樹の葉。幼虫は植物の根、腐葉土など。



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社: 岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点: 大阪, 姫路, 岡山, 倉敷, 福山, 広島, 高松, 松山

関東(市川)